

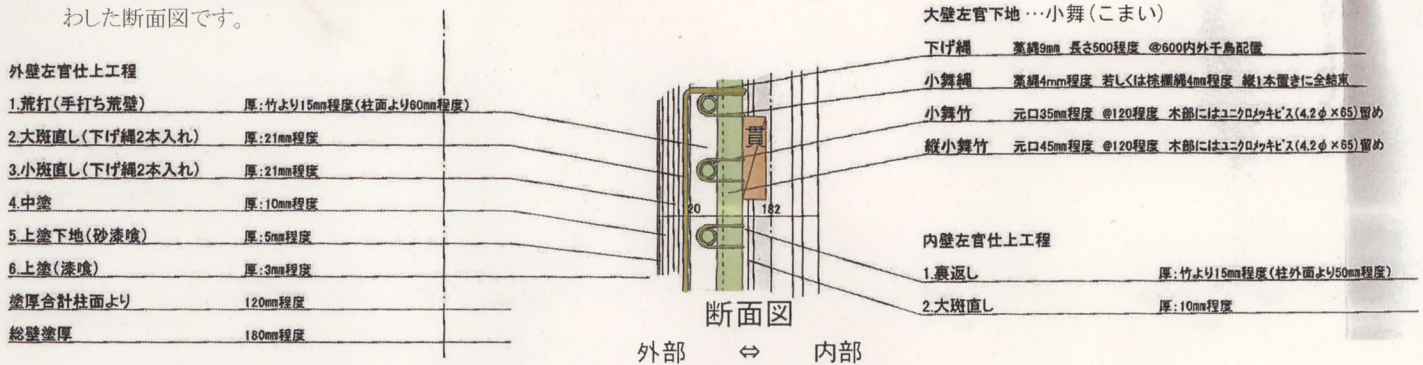
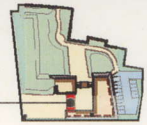
甲府市歴史公園築造工事 市民現場見学会

■山手渡櫓門の左官工事の概要

山手渡櫓門の壁は、昔ながらの左官工事によって行なわれております。現場では、下地の状況を見ることができます。下の図は、壁の構造をあらわした断面図です。

山手渡櫓門

(やまのてわたりやぐらもん)



壁をつくる工程はまず、壁土を絡ませるための小舞(こまい)を竹で搔(か)くことからはじまります。

丸竹を貫(ぬき)などに、ビスでがっちり留めます。縦の間渡し(まわたり)竹を先に取り付け、横の間渡し竹をその上に取り付けます。取り付けられた縦横の間渡し竹は、縄で縛り付けていきます。または、同時に下げ縄を結んでおきます。



縦間渡し竹取り付け終了



横間渡し竹取り付け状況



縄結び状況



荒壁施工状況

小舞の上から土を付け、仕上げに入ります。小舞に直接土をつけたものを荒壁といいます。その後下げ縄を塗り込みながら、2回以上斑(むら)を直します。そして中塗りを施します。今はその状態です。その後、砂漆喰(しつくい)を塗ったあと、白漆喰で最終的にキレイに仕上げます。